

平成30年度区政会議委員ラウンドテーブル(平成31年2月20日)での主な意見

班	意見交換1	意見交換2	参加委員
子育て・教育	<p>「子どもの居場所について」</p> <p>○子ども自身が自分の存在が認められ、存在価値を大事にされていると感じ取れる場所が大事である。</p> <p>○子どもが進んで行こうとする場所、そこに行くとは得られない経験が得られるところでないといけない。</p> <p>○小学校低学年、高学年、中学生とそれぞれの年代によって居場所が変わってくるので、それぞれに合わせた居場所をつくっていく必要がある。</p>	<p>「子どもの虐待を防ぐために(地域ができること)」</p> <p>○昨今の痛ましい事件等を見ると、行政がもっと踏み込んで解決につながるよう、もっと権限を持つべきではないか。</p> <p>○虐待ホットラインなどの仕組みが周知され、機能しているのが大事である。</p> <p>○地域内では、虐待している家庭との付き合いが悪くならないかとか、トラブルが起こらないかとか、やはり心配になってなかなか通報ができない人もいると思う。そういうことから、客観的な評価によって虐待だと判定できるものが大事だ。</p> <p>○虐待にもレベルがあって、今すぐ救済しないといけないレベルと、その予備軍がある、その予備軍を減らすために、例えば「ママのための夜カフェ」などを実施して、おかずを持ち寄って一緒に子育ての悩みなどを話しながらご飯を食べれるような場所をつくっていき予備軍を減らすことで、虐待を撲滅させることができるのではないか。</p>	<p>＜意見交換1＞</p> <p>井川委員 出水委員 一本松委員 頓名委員 平嶋委員</p> <p>＜意見交換2＞</p> <p>小野委員 玉井委員 中谷委員 中野(浩志)委員 松下(正克)委員 三宅委員 山本(まゆみ)委員</p>
地域福祉・健康	<p>「高齢者の孤立を防ぐために(地域ができること)」</p> <p>○高齢者が集まる場所が必要で、できれば無料で借りれる場所があれば良いがそれも難しくなっている。高齢者に関わっていくことが大事なので、民生委員や高齢者食事サービス等の現在あるシステムを活かし、参加者を増やすために高齢者食事サービス等の周知が大事。</p> <p>○認知症カフェや子ども食堂等いろいろな場があるが、高齢者と限定したら、それ以外の人との孤立は防げない。枠をはずして参加できる仕組みがあれば、社会的役割を担ってもらうことで、孤立から脱してもらうことができるのではないか。</p>	<p>「健康を増進するためにできること」</p> <p>○高齢になると引きこもりがちになるので、人と人との交流が大事。運動も大事なので体力に応じた無理のない運動をすることが大切。</p> <p>○四天王寺で、朝、運動しているグループがある。例えばそういったグループで運動をしている方々に、「皆勤賞」であるとか何かしら区役所からできることがあれば、運動に行こうと思う励みになるのではないか。</p> <p>○検診は重要であり、例えば高齢の方など経験のある方に検診の重要性を伝えていってもらえたら、自分も受診してみようかと広がっていくのではないか。</p>	<p>＜意見交換1＞</p> <p>江畑委員 片岡委員 菊山委員 松下(尚生)委員 三浦委員 三宅委員 山本(まゆみ)委員</p> <p>＜意見交換2＞</p> <p>一本松委員 桑原委員 頓名委員 東浦委員</p>

平成30年度区政会議委員ラウンドテーブル(平成31年2月20日)での主な意見

班	意見交換1	意見交換2	参加委員
<p>地域社会づくり</p>	<p>「どうすれば地域活動に参加しやすくなるか」 ○マンション単独で形成している町会の話として、メリット・デメリットがわかりにくいのか、町会に加入しない転入世帯が特に若い夫婦を中心に目立っている。役員の高齢化は進んでおり引き継ぐ者がいないため、マンション単独の町会が他の地域の町会に吸収合併されていくケースも聞く。マンションの管理人・管理会社は何もしてくれない。 提案として、地域活動を70歳～75歳あたりの世代が担い手として力を発揮できる場、憩いの場となるようにできないか。他都市では、野菜や米作りを行っている活動例もあるとのこと。行政に頼らない姿勢も重要。 ○子どもが減り、分譲住宅は賃貸住宅に変わっていき、継続して世話役をできる人が少ない。かつては、子ども会や地域の祭りに参加するために親が町会に参加するのが当たり前であった。また、祭り当日は小学校の授業を切り上げるなど参加しやすい環境であった。このような配慮がない限り、町会が注目されることはない。 そこで、祭りをきっかけとして子どもを巻き込み、親も参加してもらえる形にしてはどうか。子ども同士のつながりから親同士の繋がりへの発展も期待できるし、祭りに親子で参加することでコミュニケーションが図れるのでは。 ○毎年同じようなイベントを行っているが、同じような認知度(3割程度)で推移している。広報紙で取り上げることによって効果はあったか。 ⇒毎月の広報紙での地活協の活動紹介に加え、まちセンののほりを作成するなど、昨年に比べて効果は出ているのでは。(現在集約中) 聖和サマーフェスタでは、子どもが参加しやすいようなイベントとなるよう興國高校や啓林館にお手伝いいただいている。聖和サマーフェスタで行っている抽選大会などのイベントを区民まつりにも取り入れてみてはどうか。 また、区民まつりは遊びの場でなく主に展覧の場になっており、参加者の足が遠のいている。展覧の人を減らすなどして参加主体のイベントに変え、盆踊りの輪のように参加の輪を広げ皆が楽しめるようにすべき。 各連合も、連合ごとに色々なイベントを立ち上げてみてはどうか。</p>	<p>「地域でできる防災・減災とは」 ○避難路を確保する為、看板や植木鉢は、公道にはみ出ることの無いよう、公道利用のルールの徹底が必要だと思ふ。 ○非常時の共助の為、日頃からの町会活動を活発化が必要だと思ふ。また、防災意識を高める為、子育て層向けに興味・関心を高める「おいしい非常食」などの講座を行っている。 ○マンションや商店街など建物が密集する場所では、火事が起きると被害が大きくなる為、互いの心がけが大切。万一、火事が起きた際は、被害を最小限に抑えられるよう、体制づくりが必要だと思ふ。マンション理事会は役員の任期が短い為、マンション管理組合の連絡先を行政が把握してはどうか。</p>	<p>参加委員</p> <p><意見交換1> 小野委員 中谷委員 林委員 東浦委員 松下(正克)委員</p> <p><意見交換2> 出水委員 江畑委員 片岡委員 菊山委員 中野(佳弘)委員 平嶋委員 松本委員 三浦委員</p>